

ていないので、もっと勉強したいと思っています。長女も忙しくTAWは途中まで進んでいます。3年前からTAWを学びはじめた次女はだいぶ使いこなしているようです。いつかはTAWのカウンセリングをしたいと思っています。私も長女もわからないときには次女に「TAWではこれどう分析するの？」と聞くようにしています。

最初はあまりTAWに興味がなかった次女の夫も、「TAWではこうでしょ」とTAWのことをよく口にするようになりました。夫婦でTAWを知っているのはとてもいいことです。人のせいにならないので、ケンカがなくなります。何かあってもすぐ納得し合えるようです。

■自身の病気治療から開発した温熱療法

40歳の頃、臓器全部に病名がつけられるほど、病に悩んだ時期がありました。ドクターから「もう手をつけられませ



温熱療法の治療

ん」と見放されて、自分でどうにかするしかなくなりました。独学で分子栄養学、中医学、生理学を学び、そこで得た答えが、「病気は冷えが原因。身体を温めることが必要」ということでした。

まずはビワ温灸からはじめて、遠赤外線の温熱療法などを試みました。どれも身体の表面しか温まらないので、もっと身体の芯から温める方法はないかと探し回りました。難病治療で有名な国内外の温泉にも足を運びました。そこで天然鉱石に着目し、特殊な鉱石を集めて測定を繰り返した後に、天然ラジウムや遠赤外線を放出する温灸器を開発することができたのです。

この温灸器を身体にあてると、身体の芯まで熱が入っていくので、とても気持ちが良く、血液の循環が良くなりました。不定愁訴にはじまり、さまざまな疾病を持つ方たちがどんどん元気になっていきました。あれだけ病名がついていた私の身体も元気を取り戻すことができたのです。

10年前にはこの温灸器を琉球温熱治療器として特許を取り、全国から研修生を受け入れるようになりました。現在では全国で加盟店が30店舗になり、琉球温熱療法の普及に努めてくれています。

■代替療法のトップクラスを狙いたい

毎日楽しくやってきたつもりですが、「私はいつまでこれをしていくのだろう？あと20年も30年もこれを続けていくのかな？」という思いがふと頭を持ち上げることがありました。出張など仕事为重なり、少し疲れが出た時などには年齢のことを考えてしまいました。

それが、TAWを学びはじめると、TAWでは寿命は150歳といっていますから、「ああ、私だってできるな」「まだまだ若い」と思えるようになったのです。来年70歳になりますが、100歳までとしてもまだ30年もあります。30年あればできることもたくさんあると思えました。

TAWでは、前向きな思考を積み上げて、生産性を上げていけば、頂点を目指せるという考え方があります。まだでき

ると思えたら、私もつぺんを狙いたいと思いました。代替療法のなかでトップクラスになりたいという夢ははっきりしてきたのです。

折しも、韓国ではこの9月の新学期から、国立大学院のヘルスケアの特別学科に、琉球温熱療法のシステムが導入されることになったのです。韓国の教え子がこの学科の教授にもなりました。韓国では、鍼灸院や韓方医院など、この療法を取り入れる加盟店が増えているところでしたが、この展開には私自身もびっくりしました。まったく想像もしていなかったことだったので、着々と前進していることに大きな喜びを感じました。

特にアジアでは広がる気配があります。タイに新設された介護・福祉学校で、来年4月から琉球温熱療法が学科の科目として導入されることが決まり、現在、次女の夫が教材づくりを進めています。

今まで海外という言葉の壁もあり、普及させるのは難しいと思ってきましたが、このところ、上海や台湾からも話かきています。今後は台湾、中国、シンガポールとアジア圏で、私の夢が現実化していくことでしょう。今までにないハイスピードで広がる予感を感じています。



大きな夢を持てるようになったので、あと5年先ではこういうことがしたい、10年ではこうしたいと、TAWをビジネスにも活かしながら、先のことを考えて夢を叶えていきたいと思っています。



韓国自然治癒学会の学術発表会で「分子栄養学と温熱療法の自然治癒効果」という演題で講演を行いました。

■細胞が喜ぶTAWの教え

私の感覚で説明すると、「TAWとは60兆の細胞を元気づける教え」となります。良い思考をすれば60兆の細胞が喜ぶのです。60兆の細胞がワクワクしてくるんですね！細胞も元気になるので、年齢を感じさせないし、もっとできると思えるのです。

TAWの考え方で自分をしっかりと方向づけていけば、どのような結果が現れるのか、途中が見えなくても、良い結果になるに違いないと前向きに考えることができます。頂点まで行こうという思いを持ったなら、きっと想像を超えたような結果が現れることでしょう。

頂点を目指すには、もちろん努力も必要ですが、ただ突っ走るだけではそこには行けません。人間って弱いですからすぐに不安になるのです。バックアップする何か真理といえるものが必要となるはずですが。



北京の首都医科大学北京中医医院に招かれ「血液細胞から未病を考える」というタイトルで講演しました。

歴比久勝子さんが院長を務める琉球温熱療法院
<http://www.nyukyu-onnetsu.jp/index.html>

これからという時に、私はTAWという真理を得ることができました。真理を得たからこそ前進していけるのです。安心して進んでいけると思うのです。私の療法が普及していくことが私自身の喜びとなり、それが多くの方の喜びにつながり、多くの方を幸せにしていけると思っています。